



株主の皆様へ

第76期中間報告書

〈2023年1月1日～2023年6月30日〉



株主の皆様へ



目次

株主の皆様へ	1
経営基本方針、 21世紀のヤマザキの経営方針	2
事業の概要	3
セグメント別の状況	5
トピックス	9
製品情報	10
社会貢献への取組み	11
財務諸表（連結）	13
財務諸表（単体）	15
YAMAZAKIインフォメーション	16
株式の状況等	17
グループ概要	18
株主メモ	裏表紙

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループ第76期事業年度の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当第2四半期（2023年1月1日から2023年6月30日まで）におきましては、新型コロナウイルス感染拡大から3年余りが経過し、感染症法上の位置付けが5類に引き下げられ、経済活動の正常化に向けた動きが進みましたが、物価上昇が続き、お客様の節約志向や低価格志向が強まるなど厳しい経営環境となりました。また、新型コロナウイルスの感染対策が事業者等の判断に委ねられることとなりましたが、当社グループは、科学的根拠をもった感染防止対策を緩めることなく実施し、新しい価値の創造を継続しつつ、当社に与えられた社会的使命である食糧の安定供給につとめてまいりました。

当第2四半期は、昨年10月期の輸入小麦の政府売渡価格が据え置かれたことにより、昨年1月、7月に続く3回連続の食パン、菓子パンの大幅な価格改定を回避することができました。当社は、引き続き2極化・3極化戦略の徹底により、お客様のニーズに対応した低価格帯製品、値頃感のある製品の充実強化や、女性製品開発担当者による高付加価値製品の開発推進につとめた結果、業績は菓子パンを中心に好調に推移し、期初の計画を大幅に上回ることができました。また、新型コロナウイルス禍で苦戦しておりましたデイリーヤマザキやヴィ・ド・フランスの小売事業につきましても、小売事業業績改善プロジェクトによる日次管理・週次管理の徹底や、戦略製品・戦略商品開発推進チームによる魅力ある製品開発の推進など、新型コロナウイルスに前向きに対処・対応し、その中に道を見出してきたことにより、業績は回復してまいりました。

下半期につきましては、本年4月期の輸入小麦の政府売渡価格が、激変緩和措置により上昇幅は抑えられましたものの引き上げられ、当社は本年7月1日出荷分から、一部の食パン、菓子パンの価格改定を実施させていただきましたが、お客様のニーズに対応した2極化・3極化戦略が功を奏し、業績は順調に推移しております。

以上の業績を踏まえ、通期の連結業績予想の上方修正を行うとともに、期末配当予想を1株当たり3円増額し、25円に修正させていただきました。

当社グループは、引き続き「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種時きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」により、新しい価値の創造を実現する部門別の業績向上対策に取り組み、当社グループ一丸となって努力してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年8月

代表取締役社長

飯島延浩

経営基本方針

綱領

(1) わが社は、企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、個人の尊厳と自由平等の原理に基づき、いのちの道の教えの言葉に従い、困難に屈することのない勇氣と忍耐とによって、神のみこころにかなう永続する事業の実現を期すこと。

(2) われわれは、常に良きものへ向って絶えず進歩しつづけるため、各人が自由な決心に基づき、正しき道につき、断固として実行し、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進すること。

具体方針

21世紀のヤマザキは、新しいヤマザキの精神と新しいヤマザキの使命に導かれて、いのちの道の教えの言葉に従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する「部門別製品施策・営業戦略」、「小委員会によるなぜなぜ改善」を行ない、次の六つの具体方針の実践、実行、実証に邁進する。

- ① 最高の品質と最善のサービス(今日到達しうるベストオリティー・ベストサービスの実践、実行、実証)を目標とし、品質は今到達しうる最高のものであり、新鮮であること。それは製品、組織、仕事、工場、財産並びに設備のなかに表わさるべきこと。
- ② 充実した効率のよい積極的な組織体を作りあげ、そして維持拡充していくため、あらゆる可能な努力を注ぐこと。その組織体の人々は、会社を信頼し、仕事が喜びであり、普通ではできない仕事を完遂することが個人的な願望にまできていること。

③ 入手できる限りの、事業に独特な要求に適合した最善の設備と施設を備えること。
この設備や施設の調達は、維持運営が経済的であることと会社の組織に最も仕事をしやすい道具を与えるという二つの観点から考えられること。

- ④ 産業界と一般社会との間に協力関係を創り出し、維持していくため、実行可能な一切のことを行なっていくこと。
- ⑤ 業務の遂行に関するすべての決定を行なうにあたって、常にその一件を処理する上での便宜よりも、事業全体にとって何が正しいか、何が最善であるかを中心に考えること。
- ⑥ 顧客に接するときは、常に公明正大で、かつ相手が何を欲しているかを十分に考慮すること。
配達や品質やサービスについては、その成果が最優秀なものになるように努力すること。

21世紀のヤマザキの経営方針

当社は、21世紀の事業環境と社会の変化に対応するため、「企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進する」という顧客本位の精神で、潜在需要に着目しイノベーション(技術革新)によって需要を創造するという、前向き積極的なピーター・ドラッカー博士の経営理論に導かれる山崎製パン株式会社の「経営基本方針(綱領および具体方針)」を改めて高く掲げると同時に、これを補完するものとして、「日々、お取引先からご注文いただいた品は、どんな試練や困難に出会うことがあっても、良品廉価・顧客本位の精神でその品を製造し、お取引先を通してお客様に提供する」という、新しいヤマザキの精神に導かれ、科学的根拠の上立った食品安全衛生管理体制の上に築き上げる科学的・合理的・効率的な事業経営手法として、いのちの道の教えに従ったすべての仕事を種蒔きの仕事から開始する部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を実践、実行、実証することで、新しい価値と新しい需

要を創造し、社会の負託に応え社業を前進させることを21世紀のヤマザキの経営方針といたします。

事業経営の具体的遂行に当たっては、経営陣、管理職は、本物の5S・全員参加の5Sとピーター・ドラッカー博士の5つの質問を連動させる「2本立ての5S」を行うとともに、いのちの道の教えに従った部門別製品施策・営業戦略をピーター・ドラッカー博士の5つの質問と連動させ、「私たちの使命は何ですか」(What is our mission?)と問うだけでなく「私の使命は何ですか」(What is my mission?)と問い、生産部門・営業部門一体となった業務を推進するとともに、内部管理体制を充実・強化して、各部門毎の自主独立の協力体制を構築いたします。また、「良品廉価・顧客本位の精神で品質と製品、サービスをもって世に問う」というヤマザキの精神と「知恵と知識によって変化に挑戦し、新しい価値と新しい需要を創造する」といういのちの道を導く言葉によって日々の仕事の実践、実行、実証に励み、業績の着実な向上を期してまいります。

当第2四半期における連結業績の概況

売上高 **5,639億44百万円** (対前年同期比 106.8%)

営業利益 **206億10百万円** (対前年同期比 143.3%)

経常利益 **227億56百万円** (対前年同期比 133.0%)

親会社株主に帰属する
四半期純利益 **140億55百万円** (対前年同期比 155.8%)

当第2四半期の事業の概況

当第2四半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルスについて行動制限が緩和され、5類感染症に変更されたことにより経済活動の正常化が進み、外食や旅行などの回復により個人消費が持ち直すとともに、インバウンド需要も回復してまいりました。

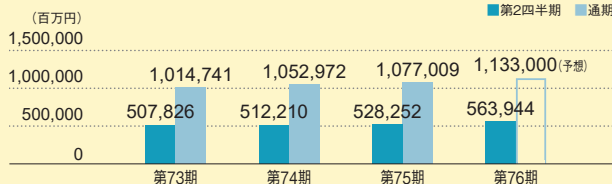
当業界におきましては、物価の上昇が続き、お客様の節約志向や低価格志向が一段と強まる中で販売競争が激化するとともに、主原料の小麦粉や油脂、卵など原材料価格の上昇に加え、エネルギーコストの増加もあり厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストアやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、人流の回復に伴い、おにぎりやサンドイッチ、焼き立てパンなどの需要が回復してまいりましたが、光熱費などの店舗コストが増加する厳しい経営環境となりました。

このような情勢下でありまして、当社グループは、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、主力製品の品質向上をはかるとともに、2極化・3極化戦略によって低価格帯製品や値頃感のある製品の品揃えを充実し、女性製品開発担当者による高付加価値製品の開発に取り組むなど、変化するお客様のニーズに対応した隙のない製品対応を推進し、新しい価値と新しい需要の創造に取り組んでまいりました。

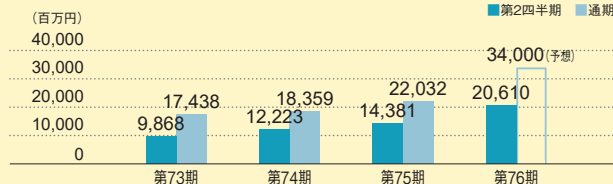
デイリーヤマザキやヴィ・ド・フランスなど小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにより日次管理・週次管理の経営手法を徹底し、日々の仕事の精度向上につとめるとともに、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、ヤマザキの技術を最大限活用した、競争力のある商品開発を推進するなど業績回復をめざしました。

また、新型コロナウイルスの感染対策が事業者等の判断に委ねられる中で、当社グループは、緊急事態においてパン、和菓子、洋菓子類を緊急食糧として社会に提供するという新しいヤマザキの精神に従い、製品の安定供給を確保するため、全従業員に対して検温を実施し、37.2℃以上の発熱がある者、また発熱がない場合でも新型コロナウイルス独特の自覚症状がある者を自宅待機とし、この自宅待機者数とPCR検査陽性者数を日々

売上高



営業利益



管理しました。また、マスクの着用や手指の消毒など日常の感染防止対策を徹底し、従業員5人以上の会食の原則禁止や感染の恐れの高い遊興施設の利用禁止など、公衆衛生上の遵守事項を徹底するとともに、職場の感染防止対策として、炭酸ガス濃度測定器によって、常時職場内の換気をしながら炭酸ガス濃度を700ppm以下に保つなど、社会的使命の達成に全力を挙げて取り組んでまいりました。

当第2四半期の業績につきましては、山崎製パン単体の食パンや菓子パンが好調に推移したことに加え、連結子会社の業績が改善したこともあり、増収増益となりました。

[セグメント別の状況は5頁から8頁のとおりです。]

通期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、新型コロナウイルス禍からの回復が進み個人消費の持ち直しが続くことが期待されますが、物価上昇によりお客様の節約志向が一層強まり、販売競争が厳しさを増す中で、主原料の小麦粉や卵、油脂などの原材料価格の高止まりが予測され、厳しい経営環境になるものと思われま

す。このような状況下にあります。当社は、主原料の小麦粉を中心とした原材料価格の上昇に対しましては、本年7月1日出荷分から、一部の食パン、菓子パンの価格改定を実施しましたが、これに合わせて、2極化・3極化戦

略によりお客様のニーズに対応した低価格帯製品や価値感のある製品など下支え製品を投入したこともあり、業績は順調に推移しております。

当社グループは、引き続き「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、2極化・3極化戦略によってお客様のニーズに対応した隙のない製品対応をはかり、新しい価値と新しい需要の創造をめざし努力してまいります。

通期の連結業績見通し

売上高	1兆1,330億円 (対前期比 105.2%)
営業利益	340億円 (対前期比 154.3%)
経常利益	380億円 (対前期比 145.4%)
親会社株主に 帰属する当期純利益	200億円 (対前期比 161.7%)

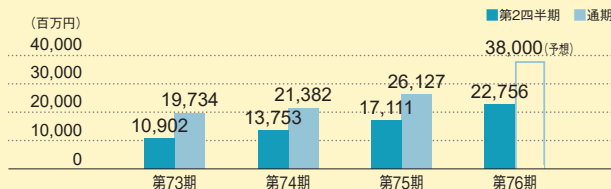
【2023年8月1日 業績予想を上方修正】

配当見通し

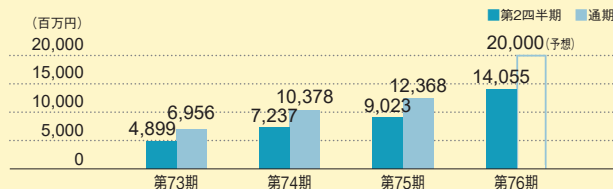
期末配当金	1株当たり25円 (3円増額)
-------	------------------------

【2023年8月1日 配当予想を増額修正】

経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



食品事業

売上高 **5,250億13百万円** (対前年同期比 106.7%)

93.1%
売上高構成比

食パン部門

売上高 **534億63百万円** (対前年同期比 103.4%)

9.5%

食パンは、主力の「ロイヤルブレッド」が好調に推移するとともに、「モーニングスター」や「スイートブレッド」などの低価格帯食パンが大きく伸長しました。さらに、食べきりサイズのハーフサイズ食パンの伸長やサンドイッチ用食パンの回復もあり、前年同期の売上を上回りました。

食パンの3大ブランド



ロイヤルブレッド



ダブルソフト



超芳醇



モーニングスター



ロイヤルブレッド
(ハーフサイズ)



ダブルソフト全粒粉入り
(ハーフサイズ)



減塩食パン超芳醇(塩分50%カット)
(ハーフサイズ)



スイートブレッド

菓子パン部門 売上高2,041億68百万円 (対前年同期比 109.1%)

36.2%

菓子パンは、「コッペパン」や「まるごとソーセージ」、ヤマザキ菓子パンなど主力菓子パンが大きく伸長し、薄皮シリーズなどのミニパンが好調に推移するとともに、新製品の「生ドーナツ」シリーズの寄与に加え低価格帯の「ドーナツステーション」の伸長もありドーナツが大きく伸長するなど、前年同期の売上を大きく上回りました。



コッペパン
ジャム&マーガリン



2色パン
チョコ&クリーム
(ヤマザキ菓子パン)



薄皮つぶあんぱん



生ドーナツ



まるごとソーセージ



牛乳仕込みの
ミルクチュロッキー
(ドーナツステーション)

和菓子部門 売上高350億93百万円 (対前年同期比 102.8%)

6.2%

和菓子は、主力の串団子や大福が伸長するとともに、ホットケーキが好調に推移し、チルド製品の「クリームたっぷり生どら焼」の伸長や和洋折衷の新製品「やわらか生大福」が寄与するなど、前年同期の売上を上回りました。



串だんご



豆大福



ふわふわ
ホットケーキサンド



クリームたっぷり生どら焼



やわらか生大福

セグメント別の状況

洋菓子部門 売上高**752億74百万円**（対前年同期比 104.9%）

13.3%

洋菓子は、主力の2個入り生ケーキや「プレミアムスイーツ」が好調に推移するとともに、コンビニエンスストアチェーン対応製品が伸長し、前年同期の売上を上回りました。



莓のショートケーキ



生クリームロール
（プレミアムスイーツ）



大きなツイーンシュー



イチゴスペシャル

調理パン・米飯類部門 売上高**742億8百万円**（対前年同期比 106.4%）

13.2%

調理パン・米飯類は、おにぎりが伸長するとともに、サンドイッチや調理麺が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。



貝たっぷり手巻おにぎり
紅鮭



貝たっぷり手巻おにぎり
シーチキンマヨネーズ



大きなサンド
ミックス



4種のミックス
フルーツサンド



ざる蕎麦

製菓・米菓・その他商品類部門 売上高 **828億4百万円** (対前年同期比 106.8%)

14.7%

製菓・米菓・その他商品類は、(株)東ハトの「ポテコ」が伸長するとともに、ヤマザキビスケット(株)の「チップスター」の売上が回復し、(株)不二家の「ホームパイ チョコだらけ」が好調に推移するなど、前年同期の売上を上回りました。



ポテコ



チップスター



ノアール



ホームパイ
チョコだらけ

流通事業

売上高 **322億円** (対前年同期比 107.4%)

5.7%
売上高構成比

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、「ランチパック 大盛り」シリーズやデイリーホット商品など、ヤマザキの技術を最大限活用した競争力のある商品開発を推進し、お客様に喜ばれるヤマザキ独自のコンビニエンスストアチェーンをめざしました。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトによりデイリーホットを中心に収益改善に取り組むとともに、既存店舗の改装を推進し、ヤマザキらしいお店づくりと個店毎の売上・収益の向上に取り組みました。チェーン全店売上高は前年同期を上回るとともに、営業総収入は直営店舗数の増加もあり増収となりました。



デイリーヤマザキ浦安千鳥店 (千葉県浦安市)



ランチパック
たまご 大盛り



空飛ぶドーナツ
(デイリーホット)

デイリーヤマザキ
当第2四半期末の店舗数

1,327店

(前年同期末差 45店減)

●デイリーヤマザキ

1,011店

(前年同期末差 30店減)

●ニューヤマザキデイリーストア

305店

(前年同期末差 14店減)

●ヤマザキデイリーストア

11店

(前年同期末差 1店減)

㈱神戸屋の包装パン事業を譲り受けました

当社は、2023年3月31日、㈱神戸屋から、同社の包装パン事業を営む子会社㈱YKベーキングカンパニーの発行済株式全部を譲り受け、完全子会社といたしました。

㈱神戸屋は、関西を基盤とし、包装パン事業のほか、冷凍パン事業、フレッシュベーカリー・レストラン事業を展開する業界第4位の製パンメーカーで、当社は、㈱神戸屋からの要請を受け、同社の包装パン事業の譲受けについて検討を進めてまいりました。

当社は、昨年8月26日に同社と株式譲渡契約を締結し、12月15日に本件について公正取引委員会の承認を得た後、YKベーキングカンパニー準備委員会を設置し事業譲受けの準備を進めました。一方、㈱神戸屋におきましても、本年2月1日、新たに㈱神戸屋内に設立した㈱YKベーキングカンパニーに対し、㈱神戸屋の包装パン事業を会社分割により承継し、当社への株式譲渡の準備を進めました。

本年3月31日に株式譲渡のクロージングを行い、当社の深澤専務取締役を新社長とするとともに、生産、営業、総務、経理部門に役員を派遣し、㈱YKベーキングカンパニーは新しい経営体制で出発いたしました。現在、ヤマザキの技術を導入し、製品の品質改善を最優先に取り組んでおります。

「神戸屋」のブランドは2年間使用することができることになっておりますが、YKブランドの育成と市場への浸透にも取り組み、事業の着実な前進を期してまいります。

YKベーキングカンパニー

名 称	株式会社YKベーキングカンパニー
所 在 地	大阪府大阪市東淀川区豊新二丁目16番14号
代 表 者	代表取締役社長 深澤忠史
事 業 内 容	パン、洋菓子の製造および販売
資 本 金	3億1,000万円
設立年月日	2022年10月12日
事 業 所	東淀工場(大阪)、寝屋川工場(大阪)、海老名工場(神奈川)、東京工場(埼玉)
子 会 社	㈱YKマルト(静岡)、㈱YKタイヨー(香川)、 ㈱YKマツヤ(島根)、㈱YK浜松デリカ(静岡)、 ㈱YKロジスティックス(大阪)

主力製品



そのまま“生”でもトーストでもおいしい 『ロイヤルブレッド』

本年7月1日から『ロイヤルブレッド』に発酵種ルヴァンを配合し、リニューアルしました。

『ロイヤルブレッド』は、良質な上級小麦粉とバターを使用するとともに、当社独自の技術と製法により、小麦本来の味と香りを活かして焼きあげており、バターの風味とコクのあるしっとりとした食感が特長の食パンです。

今回、発酵種ルヴァンを配合することで、バターの風味としっとり感を向上させました。そのまま“生”でしっとりやわらかい食感を、トーストでは香りが引き立ちサクとした食感をお楽しみいただけます。

角型食パンはそのまま“生”で、山型食パンはトーストでお召しあがりいただくのがおすすめです。



発酵種ルヴァン

発酵種ルヴァンには、パン生地に小麦本来の風味やコクのある旨みを引き出す効果があります。

当社は、従来大量生産のパンには不向きとされてきたルヴァン種を安定的に使用する技術を確立し、フランスパンをはじめ、食パンや菓子パンなど幅広く活用しており、パンの特長に合わせて使い分けております。

食べきりサイズの
ニーズにお応えするため、
ハーフサイズ（半斤）
もご用意しております。



『ロイヤルブレッド』を使ったレシピ フレッシュロースハムサンド

材料(2人分)

- ロイヤルブレッド（6枚切）…… 2枚
- ハム …………… 3枚
- マヨネーズ …………… 大さじ1
- マスタード …………… 少々
- きゅうり …………… 1/2本
- スライスチーズ …………… 2枚
- トマト …………… 2枚
- レタス …………… 1/2枚
- バター …………… 適量

作り方

- ① ハムを1.5cm幅に切り、マヨネーズとマスタードで和えます。
- ② パンの片面にバターを塗り、①と縦に薄切りにしたきゅうり、スライスチーズ、1cm厚の輪切りにしたトマト、レタスを挟んで食べやすく切ります。



表紙のサンドイッチのレシピです。

公益財団法人 ^{ファイダー} 国際開発救援財団(FIDR)

国際協力援助活動および緊急援助活動を推進しています

当社は、国際社会からの要請に応える社会貢献への取組みの一環として、開発途上国および自然災害被災地の人々がよりよい生活ができることを願い、公益財団法人国際開発救援財団 ^{ファイダー} (FIDR) への支援を通じ、国際協力援助活動と緊急援助活動を推進しております。

FIDRへの支援

FIDRは、1990年に当社創業者の故・飯島藤十郎社主が主たる基本財産を出捐し、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) を支援する目的で設立された民間の援助団体です。

子どもの未来を育む「チャイルド・ケア」と「日本人と日本企業による国際協力の推進」をミッションに掲げ、開発途上国の人々の生活環境の向上と地域の発展を目的とした国際協力援助活動と、国内外の自然災害に対する緊急援助活動を実施しております。

現在は、カンボジア、ベトナム、ネパールで、医療、保健衛生、教育、農業、栄養、収入向上などの分野において、地域に根ざした援助活動を行っております。また、東日本大震災や熊本地震、平成30年7月豪雨災害、令和元年東日本台風による水害等、自然災害への緊急援助活動にも積極的に取り組んでおります。

当社はこれらの活動を積極的に支援しております。

● 栄養教育の普及に向けた支援

カンボジアでは、2025年から学校教育に保健科目が導入され、その単元のひとつとして栄養教育が始まる予定です。FIDRは、2019年から、カンボジア教育省とともに、教科書づくりに取り組んでおります。

2022年、小学1年生から高校3年生までの教科書原稿が完成し、2023年5月、まずは4学年分の教科書8万冊が印刷されました。教科書は、カンボジアでは画期的な全ページカラー印刷で、子どもたちが興味を持って学べるよう、写真やイラストを多用しています。カンボジア全国の教員と、全国に先駆けて栄養教育に取り組み始めたコンポンチャム州の4つのモデル校の生徒に先行配布されました。現在、モデル校では、この教科書を用いた試験的な授業が行われております。



保健の教科書（カンボジア）

● 子どもと村の未来を育む学校修繕

FIDRは、ネパールのヒマラヤ山脈の裾野にあるソルクンプ郡とオカルドゥンガ郡において地域総合開発事業を実施しております。地域の課題のひとつは、学校の校舎が老朽化し、教具・教材も不足していることでした。FIDRは、村の人々との協働で学校環境の改善に取り組み、2022年度は9校の小学校を修繕しました。

壊れた屋根の葺き替え、ひび割れた壁の補修、机や椅子の製作といった作業を、地元の職人と近隣住民が協力して行うために、FIDRは資材を提供するとともに、人材の調整、作業の進捗管理などを担いました。この取り組みにより、費用を抑えられるだけでなく、将来に再び修繕の必要が生じた時も住民が対応することができるようになります。保護者や学校関係者からは「子どもたちの成長につながるよい支援だ。」と喜ばれております。



校舎屋根の修繕に一致協力する地元住民（ネパール）

FIDRホームページのご案内

FIDRの援助活動は、FIDRの法人賛助会員、個人賛助会員など多くの方々のご支援を受けて実施しております。FIDRの活動の詳細、支援方法などにつきましては、下記のホームページで紹介しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.fidr.or.jp/>

● 地震被害への緊急援助活動

2023年2月6日、シリアとの国境付近であるトルコ南東部で、マグニチュード7.8規模の地震が発生しました。その後も余震が続き、トルコ・シリア両国に大きな人的・物的損害をもたらしました。当地震による犠牲者は、トルコ・シリア両国で5万人以上となりました。

FIDRは、この地震により甚大な被害を受けたトルコ南東部、シリア北西部（アレッポ県、イドリブ県）の人々に対し、現地で活動するWVJに託す形で緊急援助活動を実施しております。

地震の直後から、食料や水、生活必需品の提供や、暖房器具・発電機・テント・毛布などの支援を、約60万7千人に対して行いました（2023年5月現在）。



衛生キットの配布（トルコ）

©World Vision

ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金への協力

当社は、FIDRとWVJが共催・実施しているヤマザキ「ラブ・ローフ」募金に協賛し、約3,500の販売店に募金箱を設置しております。これまでの募金はFIDRとWVJを通じて、アフリカやアジアの開発途上国での援助活動などに役立てられております。



貸借対照表のポイント

流動資産

売掛金が275億65百万円減少したこと等により、流動資産合計で184億19百万円減少し、2,729億2百万円となりました。

有形・無形固定資産

有形固定資産は、品質向上のための生産設備の更新等を実施しましたが、償却が進んだこともあり55億円減少、また無形固定資産は、のれんの償却などにより12億68百万円減少し、有形・無形固定資産合計は3,489億82百万円となりました。設備投資額は、152億6百万円、減価償却実施額は190億53百万円であります。

投資その他の資産

投資有価証券が、所有株式の株価上昇や子会社株式の取得等により157億64百万円増加し、1,243億78百万円となりました。

負債合計

借入金の約定返済や支払債務の減少等により、負債合計は210億66百万円減少し、3,290億67百万円となりました。

純資産合計

自己株式の取得による減少はありましたが、利益剰余金の増加等により、純資産合計は92億97百万円増加し、4,171億95百万円となりました。

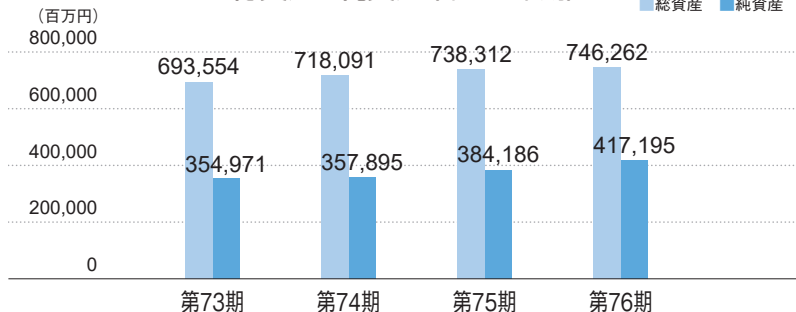
四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

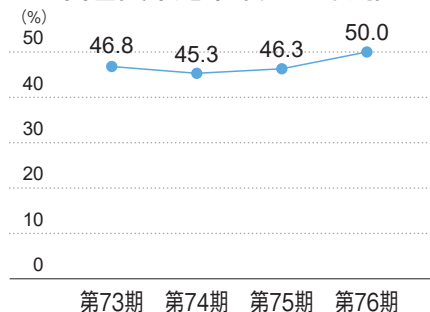
科目	当第2四半期末 2023年6月30日現在	前期末 2022年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	272,902	291,321	△18,419
固定資産	473,360	466,709	6,650
有形固定資産	326,884	332,385	△5,500
無形固定資産	22,097	23,365	△1,268
投資その他の資産	124,378	110,958	13,419
資産合計	746,262	758,031	△11,768
負債の部			
流動負債	222,293	237,341	△15,048
固定負債	106,773	112,791	△6,017
負債合計	329,067	350,133	△21,066
純資産の部			
株主資本	321,738	316,572	5,165
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,632	9,632	-
利益剰余金	327,276	317,816	9,460
自己株式	△26,185	△21,891	△4,294
その他の包括利益累計額	51,222	47,166	4,055
非支配株主持分	44,234	44,158	76
純資産合計	417,195	407,897	9,297
負債純資産合計	746,262	758,031	△11,768

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

総資産・純資産(第2四半期)



自己資本比率(第2四半期)



損益計算書のポイント

売上高

単体の菓子パン部門が好調に売上を伸ばすとともに、子会社の伸長もあり、前年同期に比べ6.8%の増収となりました。

営業利益

原材料費やエネルギーコスト等の増加はありましたが、増収等により、前年同期に比べ43.3%の増益となりました。

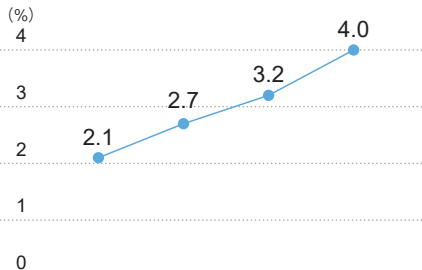
経常利益

外貨建貸付金に係る為替差益等の減少はありましたが、前年同期に比べ33.0%の増益で、売上高経常利益率は4.0%となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

減損損失や投資有価証券評価損等の減少もあり、前年同期に比べ55.8%の増益となりました。

売上高経常利益率(第2四半期)



第73期 第74期 第75期 第76期

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2023年1月1日から 2023年6月30日まで	前第2四半期 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	増減
売上高	563,944	528,252	35,692
売上原価	380,449	354,416	26,033
売上総利益	183,494	173,835	9,658
販売費及び一般管理費	162,884	159,454	3,430
営業利益	20,610	14,381	6,228
営業外収益	2,929	3,438	△509
営業外費用	782	708	74
経常利益	22,756	17,111	5,645
特別利益	221	441	△220
特別損失	948	1,756	△808
税金等調整前四半期純利益	22,028	15,796	6,232
法人税等合計	7,441	5,673	1,767
四半期純利益	14,587	10,122	4,464
非支配株主に帰属する四半期純利益	532	1,099	△566
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,055	9,023	5,031

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2023年1月1日から 2023年6月30日まで	前第2四半期 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	52,135	48,619	3,516
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29,023	△21,306	△7,717
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,118	△21,780	6,662
現金及び現金同等物に係る換算差額	△140	1,083	△1,224
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,852	6,616	1,236
現金及び現金同等物の期首残高	119,559	133,495	△13,936
現金及び現金同等物の四半期末残高	127,412	140,111	△12,699

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表(単体)

四半期貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 2023年6月30日現在	前期末 2022年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	148,205	160,045	△11,839
固定資産	400,027	389,538	10,488
有形固定資産	201,034	205,172	△4,138
無形固定資産	7,747	7,589	158
投資その他の資産	191,245	176,775	14,469
資産合計	548,232	549,583	△1,351
負債の部			
流動負債	140,285	147,120	△6,834
固定負債	96,796	101,223	△4,427
負債合計	237,081	248,344	△11,262
純資産の部			
株主資本	277,879	273,870	4,009
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,676	9,676	-
利益剰余金	283,373	275,070	8,303
自己株式	△26,185	△21,891	△4,294
評価・換算差額等	33,271	27,369	5,902
純資産合計	311,151	301,239	9,911
負債純資産合計	548,232	549,583	△1,351

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2023年1月1日から 2023年6月30日まで	前第2四半期 2022年1月1日から 2022年6月30日まで	増減
売上高	407,701	382,194	25,507
売上原価	274,882	257,837	17,044
売上総利益	132,819	124,356	8,462
販売費及び一般管理費	116,043	113,577	2,466
営業利益	16,775	10,779	5,996
営業外収益	3,416	4,073	△656
営業外費用	556	523	33
経常利益	19,635	14,329	5,306
特別利益	72	43	28
特別損失	933	1,125	△191
税引前四半期純利益	18,774	13,247	5,527
法人税等合計	5,881	3,988	1,893
四半期純利益	12,893	9,259	3,633

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

YAMAZAKI インフォメーション

ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」

2023年9月1日（金）から11月15日（水）までの期間中、ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」キャンペーンを実施いたします。対象製品についている点数券を集めてご応募いただくと、毎週抽選で総計40,000名様に素敵な賞品をプレゼントいたします。詳しくは対象製品のパッケージまたは当社ホームページをご覧ください。

Aコース 東京ディズニーリゾート®パークチケット(ペア)

Bコース ヤマザキグループのお菓子のファンタジーボックス

毎週抽選で総計 **40,000** 名様に **当たる!**

キャンペーン期間 **9/1(金)~11/15(水)** 応募期限11月20日(月) 当日消印有効

A 14 点応募 **東京ディズニーリゾート® パークチケット** (2,500組) **5,000** 名様

B 4 点応募 **ヤマザキグループのお菓子のファンタジーボックス** 人気のお菓子が **25** 種 **35,000** 名様

※山崎製パン株式会社は東京ディズニーランド/東京ディズニーシーのオフィシャルスポンサーです。
※写真はイメージです。(カゴはプレゼントに含まれません)
※詰合せ内容・デザインは変更になる場合があります。

株主優待情報

株主様の日頃のご支援にお応えするため、毎年12月31日現在の株主様（ご所有株式数1,000株以上）に対し、3,000円相当の自社製品の詰合せを毎年4月にお届けいたします。



写真は本年4月にお届けしたものです。

株主優待制度は、当社株式1,000株(単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象としております。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、製品情報やおおすすめのレシピなど、さまざまな情報を公開しています。



<https://www.yamazakipan.co.jp/>

株式の状況 (2023年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式総数	220,282,860株
株主総数	19,027名 (前期末比6,101名減)

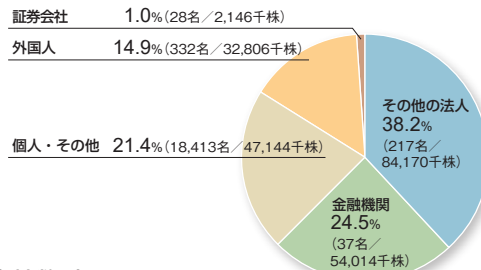
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	18,777,895	9.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,969,500	6.7
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	6.0
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.3
三菱商事株式会社	9,849,655	4.7
丸紅株式会社	8,165,880	3.9
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	7,121,900	3.4
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	3.1
株式会社三井住友銀行	3,946,419	1.9
飯島 延浩	3,665,424	1.7

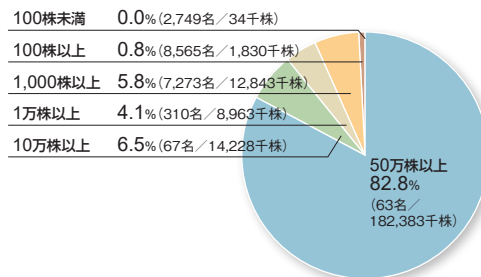
(注) 1. 当社は、自己株式を14,328,269株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

株式分布状況

●所有者別



●所有株数別



役員・従業員 (2023年6月30日現在)

役員

代表取締役社長	飯島 延浩	常務取締役	園田 誠
取締役副社長	飯島佐知彦	取締役	島田 秀男 (社外取締役)
取締役副社長	飯島 幹雄	取締役	畑江 敬子 (社外取締役)
専務取締役	横濱 通雄	取締役	佐藤 健司
専務取締役	会田 正久	常勤監査等委員	
専務取締役	犬塚 勇	取締役	松田 道弘 (社外取締役)
専務取締役	関根 治	常勤監査等委員	
専務取締役	深澤 忠史	取締役	齋藤 昌男 (社外取締役)
		監査等委員	馬場久萬男 (社外取締役)

従業員

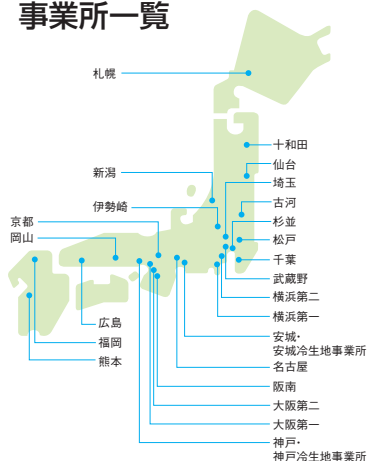
連結	32,616名 (男性23,585名、女性9,031名)
当社	19,951名 (男性15,640名、女性4,311名)

重要な子会社

会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	54.4	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造および販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造および販売
ヤマザキビスケット株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造および販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	100	100.0	ベーカリーカフェの経営
株式会社東ハト	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造および販売
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造および販売
株式会社イケダパン	100	80.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc.(アメリカ)	5,000千US\$	100.0	ベーカリー製品の製造および販売ならびにベーカリーカフェの経営
株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地等の製造および販売ならびにインスタベーカリーの経営
フォーリーブズ PTE.Ltd.(シンガポール)	1,250千S\$	60.0	ベーカリーの経営
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造および販売
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
香港山崎麵包有限公司(香港)	45,500千HK\$	100.0	ベーカリーの経営
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
PT.ヤマザキ インドネシア(インドネシア)	8,830億Rp	51.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティクス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理および工事の請負

- (注) 1. 大徳食品(株)は、(株)サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。
 2. (株)サンロジスティクスは、当社と(株)ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。
 3. 連結子会社は、上記重要な子会社18社を含む35社であります。

事業所一覧



本社	東京都千代田区岩本町3-10-1	大阪第一工場	大阪府吹田市幸町29-1
本松戸工場	千葉県松戸市南花島向町319	神戸工場	兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
千葉工場	千葉県千葉市美浜区新港22	大阪第二工場	大阪府松原市三宅東2-1835-5
武蔵野工場	東京都東久留米市柳窪2-5-14	阪南工場	大阪府羽曳野市広瀬161
埼玉工場	埼玉県所沢市坂之下85	京都工場	京都府宇治市横島町目川100
杉並工場	東京都杉並区高井戸西3-2-30	名古屋工場	愛知県名古屋市中区玉池町36
横浜第一工場	神奈川県横浜市戸塚区上柏尾町15	安城工場	愛知県安城市二本木新町2-1-3
横浜第二工場	神奈川県横浜市都筑区東方町188	岡山工場	岡山県総社市并尻野800
古河工場	茨城県古河市丘里7	広島工場	広島県広島市安佐北区大林2-3-1
伊勢崎工場	群馬県伊勢崎市粕川町1801	福岡工場	福岡県古賀市古賀69
仙台工場	宮城県柴田郡柴田町槻木白幡2-9-1	熊本工場	熊本県宇城市松橋町浦川内2388
新潟工場	新潟県新潟市江南区二本木4-12-8	安城冷生地事業所	愛知県安城市二本木新町2-1-3
十和田工場	青森県十和田市稲生町1-13	神戸冷生地事業所	兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
札幌工場	北海道恵庭市恵南10-1	海外駐在員事務所	米国、パリ、台北、上海、ジャカルタ、ホーチミン

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当の基準日	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
公 告 方 法	電子公告によるものとし、当社のホームページ（ https://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/ ）に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株 式 の 上 場	東京証券取引所プライム市場

株式に関するお手続き

- 株式に関する各種お手続き（住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など）は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種お手続き（証券会社の口座への振替（※）、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など）は、三井住友信託銀行にてお取扱いたします。

（※）証券会社の口座への振替について

特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。

・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。

・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種お手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。

◎ ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

- 未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取扱いたします。
- 会社法改正により、株主総会資料の電子提供制度が開始され、株主総会資料は原則としてインターネットを通して提供することとなりました。引き続き書面での受領を希望される株主様は、口座を開設されている証券会社または三井住友信託銀行にお問い合わせください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-533-600（電子提供制度専用ダイヤル）